

せいげつ にっ きちよう 井月の日記帳 となつた「はいかいしよ か ぎよくぎんしゅう およ こう き か ざんにゆう く だいほん だい
 奉書壺枚摺口画入諸家投吟集」というのが、おそ こ しようかんちゆう したた せいげつ くわだ
 て「大摺物」のおおすりもの したがき したた せいげつ くわだ の下書であろうと思ふ。果して然らばこれは、めいじ じゅうしちねん ひつ こう き
 「ざんにゆう く つ こ しようかん ゆうりよく うらがき につ き じゅうしちねんはちがつなの か じょう
 参照 (富県村貝沼埋橋条衛氏蔵)

かいしやう 廻章

ひぜつ 飛舌

こうかん せつかくよう ごゆうしやう ござ な され ちんちやうあきからずめ たくぞんじたてまつりそうろう
 向寒の節各様御勇勝被成御座、珍重不浅目出度奉存候。{ここまであいさつ文。「廻章」

は回状のこと。この文書を、仲間や門人たちが回覧したのでらう。「飛舌」は語義不明だが、「舌
 代」と同じような意味を込めて書いたか。}

しかるところ ぐ そうごとしゆんちゆう しようか ぎよくぎん うかがい しようがい ふうりゆう もよお おおすりもの くわだてそうろうところ
 然ル処愚叟事春中より諸家の御玉吟を伺ひ、生涯の風流を催し大摺物を企候処、

はるさりやあき き いままんが ん いた まった きんせん ゆえ
 春去秋来てに今満願に至らざるは、全く金銭のたしなき故とこそ。【さて私事です、春より

諸先生方の俳句を集めて、生涯をかけた「大刷り物」を企画したところ、春が去り秋が来ても、
 いまだに実現に至らないのは、すべてお金が足りないからです。】

これによりごこんいさまがた こたび いちじやう いっせい こうかん きくんがた ほじよ あら くんこうおほ
 因茲御懇意様方へ此度的一条は一世の曠鑿にして、ひたすら貴君方の補助に在ずんば、勲功覚

つか おとりもち ちよめい ねがうものなり てつぶ きゆう たまわ もうしあげそうろうなり
 束なく御取持の著明なるを希ふ者也を轍鮒の急をたすけ玉はれと上申候也。【親しくしてい

ただいている皆様へ。今回のお願いは一世一代の曠鑿（語義不明）であり、皆様の補助がなけれ
 ば成功おぼつかなく、おとりなしを願います。今すぐ助けて下さい。】

じゅうがつじゅう にち 十月十二日

かいぬまむらごうち 貝沼村耕地にて

せいげつきゅうはい 井月九拜

うずはしさま
埋橋様

ごしやちゆう
御社中

ぎよふうくんしゆうちゆう
御風君衆中